

囲碁ボール

1 囲碁ボールとは

囲碁ボールは兵庫県柏原町で生まれました。

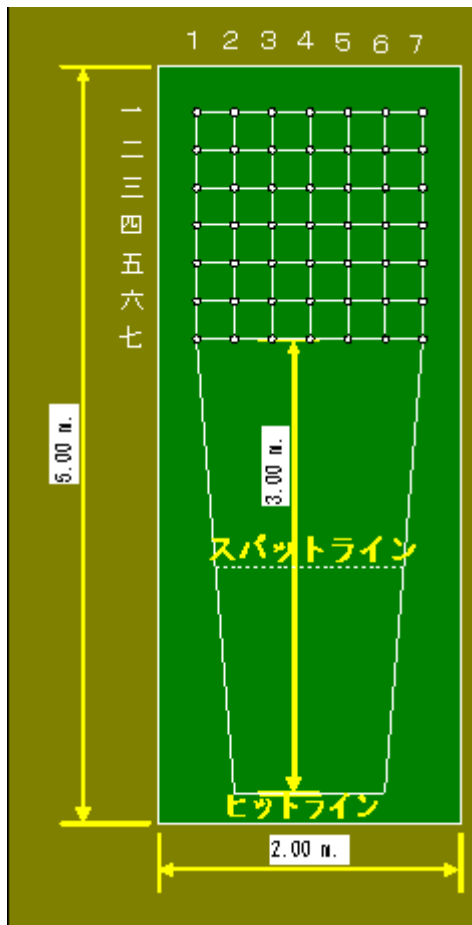
その昔、とても囲碁好きな殿様同士が、村人の領地争いを碁の勝敗によって決めたという故事にちなんで「囲碁のまち柏原」をめざし、体力を問わずみんなが楽しめるスポーツとして、囲碁ボールが考案されました。このスポーツは、スティックでボールを打ち、碁盤になった人工芝マットにボールを並べて、得点を競うものです。

2 用具

- ・ 囲碁ボールマット・・・縦5 m横2 mの人工芝マットに、49個の目（穴）がある。
- ・ ボール・・・直径7 cmの硬質プラスチック製で、白・黒の各10個。
- ・ スティック・・・木製。

3 場所・コート

5 m × 2 mの専用マット（下図参照）



スコアカード

局	目	1局	2局	3局	4局	5局	合計	勝敗
黒	スコア	5						
	残り球数	4		1			1	
	得点	3	1				1	
黒の得点		4	3	5	7	5	24	
白	スコア	5				1	1	
	残り球数	4						
	得点	3						
白の得点		5	4	3	5	6	23	勝

局	目	1局	2局	3局	4局	5局	合計	勝敗
黒	スコア	5				1	1	
	残り球数	4		1			1	
	得点	3						
黒の得点		2	5	6	5	7	25	勝
白	スコア	5		1			1	
	残り球数	4						
	得点	3	2		1	1	4	
白の得点		5	7	7	6	7	32	

4 ゲームの進め方

- (1) 競技はヒットラインよりヒット（スティックでボールを打つこと）したボールを停止させ、ボールを並べることを競う。

- (2) シングル、ダブルス、5対5が基本的な対戦方法であるが、変則的な人数でも競技できる。
- (3) トスで先攻(黒ボール)を決める。
- (4) 黒・白のチームが交互にヒットする。
- (5) 両チーム全てのボールを打ち終わることを「1局」といい、1局が終わればアウトボールを取り除き得点を記録して次の局に入る。
- (6) 次の局は、前局の高得点チームが先攻となる。前局が同点の場合は、前局の先攻チームが引き続き先攻となる。
- (7) 1試合は5局の総合計で決める。

5 ルール

- (1) 目の底部に接触していないボールは、アウトボールとなり1局終了後、取り除く。
- (2) 1局中に1人が打つボールの数は、対抗する人数によって異なる。
- (3) ヒットするとき、スティックはボールに1回のみ触れることができる。
- (4) 打ったボールが、すでに打って停止しているボールに触れても、反則にならない。
- (5) 1試合は30分で行い、時間内に5局競う。30分を経過した場合は次の局に入らない。
- (6) 得点
得点には「ライン得点」と「ポイント得点」がある。
 - ・ライン得点
ボールが縦・横・斜めのいずれかの目に3つ以上並ぶとライン得点となる。並んだ数を「目(もく)」といい、できた組数を「連(れん)」という。6つ以上並んだ場合は得点とならない。
 - ・ポイント得点
目(め)に停止しているボール数がポイント得点となる。
チームのボール10個すべてが、どこかの目(め)に入った場合はポイント得点10の他に、特別にライン得点「5目1連(5もく1れん)」が与えられる。

6 勝敗の判定

まずライン得点でみる。

- (1) 全局の中で、「5目(もく)」で「連(れん)」の数が多いチームを勝ちとする。
- (2) (1)で同点の場合は、以下「4目」「3目」の「連」の多いチームを勝ちとする。

ライン得点と同じ場合は、次にポイント得点でみる。

- (1) ポイント得点の多いチームを勝ちとする。
- (2) ポイント得点も同じ場合は、いずれかの局で高い得点のあるチームを勝ちとする。